

第2回鳥根県スポーツ少年団 からだづくり運動ひろば(石見会場)

10月21日(日)、県立石見武道館にて第2回鳥根県スポーツ少年団「からだづくり運動ひろば」が実施されました。昨年度の出雲市、今年度の松江市に続き、石見では初の開催です。小学校1～3年生を中心に、子ども29名・保護者24名、計53名の参加がありました。

パート1は、鳥根県サッカー協会:田中理沙氏を講師に、「みんなで遊ぼう!」と題し、コーディネーショントレーニング系の遊びを、パート2では、スナッグゴルフ、サッカー、おにごっこを楽しみました。

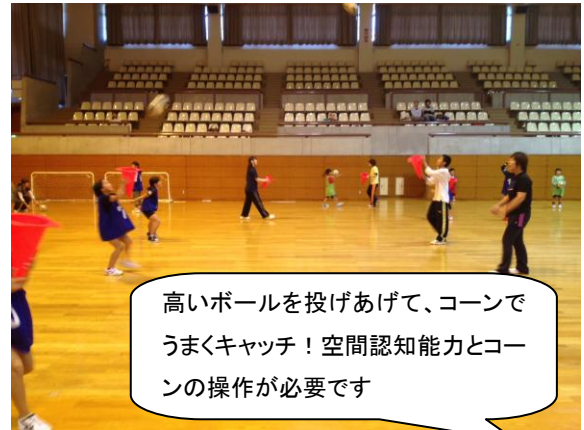
ビブスカッチは、ビブスを投げ上げて、手・腕・もも・足といろいろな体の部位でキャッチします。広がることで取りやすくなること、失敗しても痛くないことなどが配慮されています。最近の子どもたちは投げる力が弱いというデータがありますが、ものを壊すといけない、危ないといった環境に大きく影響を受けています。ビブスの代わりにタオルでもできますし、タオルを1回結ぶだけで遠くに投げることもできます。これならば家の中でも簡単にできるのではないのでしょうか。

コーンキャッチも最初はワンバウンドしたもののキャッチをします。空間認知能力が低い子どもでも最高到達点が低いために位置の把握が難しくありません。慣れてくるとダイレクトでのキャッチに移行し、高さや動きながらとバリエーションも広がります。出雲市多伎町から参加したキララスカイの3・4年生はバレーボールをやっていることもあり、ボールの落下点をしっかりと見極めることができているととても上手でした。

反面で、雑巾しぼりや雑巾がけ、石投げ、おにごっこなどの生活や集団遊びを通して自然に獲得していた、足腰の強さ、握力、投力、ステップワーク、バランスなどを教えなければ身につかないことに少しさびしく思います。



家族4人で参加されました。子どもたちはお父さんとお母さんと一緒にやることを心から楽しんでいましたし、ご両親もそれをしっかりと受け止めて笑顔で汗を流されていました。



高いボールを投げあげて、コーンでうまくキャッチ! 空間認知能力とコーンの操作が必要です



コーンにねらいを定めて・・・キック!
思ったところにコントロールできないだけ、当たった時の喜びはひとしおです。「まっすぐ蹴って!」と言われても、それができないから困るのですよね。大人が距離やキックのくせを考えながらコーンを置くことで成功体験を引き出せるのではないのでしょうか。

